

令和4年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 美術科

改善の重点

- ① 題材における具体的な評価規準、指導事項などの整合性を図ること。
- ② 題材や時間のまとまりの中で生徒同士に表したいことや感じ取ったこと等を交流させるなどして、発想や構想、見方や感じ方を広げることができる効果的な言語活動の充実を図ること。
- ③ 実際にものに触れたり見たりすることが、美術科の資質・能力の育成において重要であることを踏まえ、1人1台端末の活用を進めること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第6節美術の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「『A表現』及び『B鑑賞』の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして対象の見方や感じ方を深めるなどの言語活動の充実を図ること。」とある。また、美術科の学習指導においてもICTの特性・強みを生かし、1人1台端末を活用した授業づくりを行うことが求められている。

本県の美術科においては、題材における「付けたい力」と、そのための「指導事項」や「評価規準」の整合性、「1時間の授業や題材を通しての到達点」の具体的な設定等が課題として残る。また、言語活動が効果的に生かされていない実践等が見受けられる。

そのため、表現及び鑑賞の活動を通して共通に働く〔共通事項〕を指導しながら、表現及び鑑賞の活動を通して、生徒が発想や構想、見方感じ方を広げられるように、自分の思いを言葉でまとめたり、他者と交流したりする場面を時間や題材のまとまりの中で設定し、効果的な言語活動の充実を図ることが求められる。また、GIGA スクール構想の観点から感性や想像力を働かせる場面を大切にしながら、学習のねらいに応じて必要性を十分に検討してICTの活用を進めることが大切である。

その際、生徒の実態を踏まえ、目標や指導内容と合った具体的な評価規準を設定し、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等との整合性を確かめ、資質・能力の確実な育成を図ることが求められる。加えて、生徒の振り返りの中に見られる記述や授業評価等から、指導の改善に努めることが重要である。

2 研究を進めるに当たって

(1) 研究を進めるにあたっては、以下の点に留意すること。

- ① 生徒の実態を十分に踏まえて指導方法の改善、指導内容の充実を図ること。
- ② 地域の図書館、資料館、美術館などの施設を積極的に利用すること。
- ③ 1人1台端末については、表現や鑑賞の場面において使う用具として、学習のねらいに応じて活用の必要性を検討すること。

(2) 参考資料

- ① 中学校学習指導要領解説 美術編
- ② 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術
- ③ 「早わかり！題材計画の作成手順」
- ④ 文部科学省Studx Styleウェブサイト 各教科等における1人1台端末の活用事例
- ⑤ 文部科学省音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるICTの活用について